

中原消防団 広報誌

第3号
発行 平成19年2月
題字 中田 隆

翔太



平成19年 中原地区消防出初式

防災を願う心 一致団結！



幼年消防クラブ(平間幼稚園)の演技



家庭婦人消防隊の皆さん



平成19年1月7日(日)等々力緑地公園催し物広場において、中原消防関係団体が参加し、当日は晴天に恵まれ大勢の方が見守るなか盛大に挙行されました。

ごあいさつ

中原消防団長
内藤 雅光



原署長(左)と内藤団長

新年あけましておめでとうございます。区民の皆様には、平成19年の輝かしい新春を迎えられ、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃から消防団の運営や活動に対し、御理解と御協力を賜りまして、深く感謝申し上げます。

本年も私たち消防団員は、一丸となって、中原区民の負託に応えられるよう、更なる精進に励みますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

中原消防署長
原 光男

消防団員の皆様、区民の皆様、新年あけましておめでとうございます。去る1月7日に開催いたしました消防出初式には多

くの区民の皆様にご来場いただき、盛大に挙行できました。紙面をお借りして、衷心より御礼申し上げます。今年も「郷土愛護」という団員の皆様の崇高な思いと、発生が危惧される大震災に備え、消防署と消防団が更に団結し、防災力の向上に努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

大戸の半鐘



安楽寺の半鐘 志村班長

今年の消防出初式に半鐘の音が鳴り響いた。この半鐘は大戸分団の器具置場に長年置かれていた物で、以前は火の見櫓に吊られ火災の参集等に使われた。

大戸分団には二つの半鐘がある。ひとつは下小田中の安楽寺と鐘の胴に銘が刻んであり、もうひとつは上小田中の泉澤寺とある。

泉澤寺の半鐘は上小田中を始めて二十三ヶ村の



泉澤寺の半鐘

村名があり、遠くは世田谷烏山とあり、明治十三年とある。安楽寺の半鐘は銘によると寛延四年の作とあり、およそ二百五十年程前となる。歴史のある半鐘も戦時の金属類回収令により各地より供出された梵鐘と同じように集められたが終戦をむかえ、溶解されず残ったところを消防団でもらい受けた。その後昭和四十年頃までは火災などの伝達に使われた。半鐘の鳴らし方によって火災の発生の方を伝えたとのこと、遠くならジャーンとゆっくりりと、近くならば「擦り半」と言われてジャンジャンと続けざまに呼びかけとなった。農業などで自宅から離れて仕事をしていた団員も、その音を聞いて出勤した。電話の普及等によって、半鐘を使うこともなくなり数十年が経ったが、年月を隔てて半鐘の響く音を聴きながら消防団の伝統を感じ、又、火の用心を心新たにしたい出初め式であった。



大会を振り返り
分団長 原 増男

川崎市消防団操法大会

大戸分団が最優秀賞 丸子分団 敢闘賞



後列左より 橋之口団員(2番員)、市橋団員(3番員)、井上団員、名取団員(1番員)
前列左より 原分団長、猪股班長(指揮者)、原団員

川崎市消防団操法大会が平成18年9月に行われ、参加した市内の消防団分団16チームの中で大戸分団が最優秀賞となった。

昨年実施された市操法大会に於いては、お陰様で久々にそして幸運にも最高の成績を収めることができました。紙面をお借りしまして、改めてお礼申し上げます。そして団長さん、署長さんを始め、OBの皆様方、関係各位諸兄におかれましては、きめ細かいご指導、そしてご協力を頂きました。感謝申し上げます次第です。

第三回大会以来、8年振り4回目の最優秀賞です。雨の降りしきる中、6月11日中原消防大会が実施され接戦の末、予選を通過しました。6月の末迄訓練を休みにして、7月に入り大会を目指し、いよいよ訓練を再開。臥薪嘗胆と申しますか、捲土重来を期しての訓練です。大戸に課せられた使命、それは最優秀のみです。8月に入りなかなるみお盆明けからネジを巻き直し最後の仕上げの訓練に入りました。真夏の訓練。そして団員全員の応援手伝い協力。8月の末には、様々な情報が入ってきました。それは臨港が42秒、そして中原大会で負けている丸子分団は、43秒といった内容です。とにかく、「速い」といった情報です。そこで、タイムで勝つのは非常に厳しく我々としては、タイムアップして全員の動きが乱れるより、放水45秒の設定でいかに減点を最少に抑えるかにかかってきた訳です。手の上げ下げ、ヨシ・マエそして「節度最重視」。結果その様な訓練が幸運をもたらしてくれました。平成18年9月10日・快晴・興奮・感動・そして感謝。於三菱。選手にとっても分団にとっても忘れられない一日でした。



家族も応援
「お父さん頑張れ！」

般の要求に適応させるための基礎をつくとあります(第二条・訓練の目的)。そして、その任務は、火災・風水害・地震・台風等のあらゆる災害を防除し軽減する。とされています。この任務を迅速確実に安全に遂行するため消防団員は、常に必要な訓練を重ねなければならぬわけですね。

最後に、関東大震災より82年が経過した今、東南海・南関東直下型の地震がいつ起きてもおかしくないと言われている。地域の防災、安全安心まちづくりに対しても分団一丸となって対応、寄与させて頂く所存です。

消防と神輿

17、18世紀の江戸では、五六年に一回の割合で大火があったという。幕府は財政負担軽減を図るものでもあったのだから、軍役の一環として一部の大名に火消し役を命じたが、すでに泰平の世の中にあつては火事場における活躍は大名にとっても晴れがましいものだったろう。

江戸中期になつても大火は続発し、幕府は消防組織の強化、整備を繰り返しの制度としても大名火消、旗本の定火消などの一方、町方にも町火消の設置を命じ、自衛消防組織が編成された。その後次第に町火消に主導権が移つていく訳だが、それぞれ對抗意識を背景に、一番乗りや消し口を巡って争いが多発したようである。

「火事と喧嘩は江戸の花、そのまた花は町火消」といわれる所以であるが、今でも消防団に入る連中はそのDNAを受け継いでいるのではあるまいか。まさか今の時代に喧嘩する訳ではないが、消防団員の多くは神輿担ぎも兼ねている。火事場を神輿におきかえて、ハナ棒を巡って争奪戦をやり合い、拳句に晴れがましくハナを担いでいるところなど、

どはまさにそれである。さて、話は戻るがこの辺りはどうだったのだろうか？ 江戸から見れば町奉行の支配していた朱引内の外側で、荏原郡のその先の多摩川の川向こう、橋樹郡のいなかである。町人の住む裏長屋の密集した大都市・江戸とちがひ、人家もまばらだったろうから大火に見舞われたというようなことはなかった、江戸の近郊で日帰りできる距離。往来もあつたらうから影響も受けていようしそれなりの体制、組織もあつたのだから。原副団長のよいうな旧家にはその辺に関する古文書も残っているだろうからそのうち団員教養の折にでもお話を伺いたいものである。

ガンバレ 玉川分団T・Y



女性消防団10周年

平成8年9月 川崎女性消防団発足 当初45名の女性団員も現在では57名が活動しています。中原消防団においては当初3名の女性団員も現在では9名が各分団において活動しています。



女性消防団発足10周年記念特別研修
2月14・15日

丸子分団 白井京子

初代女性消防団員として、入団してはや10年？

初めて参加した消防大会。応急救護競技での独走による一位入賞は今でも一番心に残る出来事です。最初は丸子分団にしかいなかった女性団員も住吉、大戸にも入団し、昨年は女性団員で応急手当指導員の資格取得。講習会において指導者として参加出来ることは有意義なことと思っています。これからは女性団員として出来ることを皆で模索しながら活動したいと思っています。

丸子分団 期待の星！

この度丸子分団に期待の新入団員が入りました。丸子分団期待の星に消防団員としての感想を聞きました。



荒川 団員



大高 団員

消防団に入った動機等について聞かせてください。

荒川 町会の組織に入ったときに、元消防団の方に勧められました。

小さい頃育ったところも地域の活動が盛んな所で、地域に非常にお世話になったんです。消防団活動も活発で、消防着を着て、むこうは大八車だったんですけど、幼心にその活動していると

ころを見て、いずれ自分も大人になったら子供や地元のために頑張ってもいいんじゃないかと思っていました。

ところが引越してきて



着ぐるみをきて初仕事

たので、きつかけが無かったんですけど、声を掛けていただいたので、喜んで入りました。

大高 お祭りの鉢払いでカラオケで歌っていたら声をかけられたのですが、私の町会は地区の中では目立ってないように見えたので、私が地区の組織に入って自分の町会のアピールをした

かと思って入りました。

消防団に入ってどんな感じでしたか

大高 まだ火災現場には行っていないのでわからないのですが、出初めとかに参加してみても皆さんが心遣いしてくれているので、居心地よくさせて貰っているなと思っています。

荒川 初めてのことがばかりですが、聞いた範囲ではだいたい想像はしていたとおりののですが、すごく団結

心が強く上下関係がしっかりとしているなと感じました。びっくりしたのは、新人教養訓練で最初に「起立・礼」といわれ、久しぶりの体験だったので、身が引き締まる思いをしました。改めて入って良かったなと思いました。

消防団に入って変わったことは

大高 たばこを止めましたね。町内会の定例会の帰りにいつもなら歩きたばこをして

いるんですけど、「消防団員になったらできないね」と話をしていました。そんなことがあって気を遣うようになって、ついには止めてしまいました。

家族は何と言っていますか

荒川 子供は3人です。9歳6歳4歳です。私が消防団の格好で出かけるとき子

イケメン団員紹介



吉田 祥(住吉)

昭和49年11月2日生・独身 職業 住吉神社

権禰宜(ごんねぎ)

住吉神社

父親が宮司

住吉神社(本務社)の他に11社を兼務

供達が笑みを浮かべて、「お父さん頑張ってるね」といった感じで送り出してくれるので大変ありがたいがあります。大高 子供は3年生の男の子と5歳の女の子がいます。家で制服に着替えていくのをみてかっこいいと言っていました。私は仕事柄ネクタイを締めないので制服を着ているのを見て新鮮に写ったのかもしれないね。

趣味とかがありますか

荒川 特にありませんが、人と話するのが好きなので、何かを通じて人とお会いすることを大事にしています。

大高 唯一の趣味が等々力でのフロンタールの試合の観戦です。地域の子供のサッカーチームのコーチをしていてこのあと練習に行く予定になっています。

趣味 音楽鑑賞 フットサル

消防団に入団して四年目となりましたが、消防大会で一般競技(ホース延長)小型ポンプ操作を経験して、消防技術の難しさを痛感しています。今年の訓練では、さらなる消防技術の向上を目標とし、地域の防災に少しでも貢献できるよう、精進していきたいと思っています。



中原分団 分団長 大塚 義春

二〇〇七年の初めに抱負を又は、目標としては昨年

の操法大会における最少減点に徹した事を生かして高得点で優勝を獲得したい。分団の総力を結集し訓練に励み団員各位の力が満たされた結果を出して欲しい。さて、阪神大震災発生よ

地域の消防・防災紹介①
事業所自衛消防隊

三菱ふそうトラック・バス(株)

— 中原区大倉町 —



弊社の自衛消防活動について
 総務部 下ノ村弘臣

中原消防団の皆様並びにご家族の皆様には平素から大変お世話になり有難うございます。

弊社川崎製作所の発足は昭和16年の三菱重工(株)東京機器製作所川崎工作部までさかのぼりますが、爾来地域の皆様のご理解・ご協力のもと今日に至っております。

弊所の防災体制は、「防火管理組織」「防火管理推進要領」「地震対策要領」「暴風雨対策要領」の各マニュアルに基づき構築、推進しております。自衛消防隊は、

日本電気(株) 玉川事業場

— 中原区下沼部 —



NEC玉川 自衛消防隊

山根啓治

中原消防団の皆様、平素から無火災の実現に向けて地域社会の安全管理体制に取り組み心より感謝申し上げます。

当社は、一九三六年(昭和11年)6月、玉川向工場として当地にて稼動しました。当時は、自社警備の一環と

富士通(株)

川崎工場

— 中原区上小田中 —

富士通(株)川崎工場の警備スタッフ自衛消防隊は約25名から編成しており、現場・現物・現実の3現主義を基本に工場内の防犯・防災の業務に従事しております。

警備スタッフは業務の中でライフゼムの装着訓練、AED操作、消防車を使った実践的な初動活動等を行うなど、事業所内で予見されるリスク初動活動を迅速に確実に出来る様に日々励んでおります。

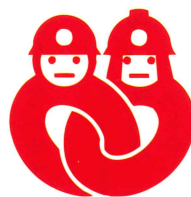
また、事業所の地震防災をはじめとしたリスクマネジメントは「知識」よりも「日常の意識」、気づきによる不完全箇所の改善の重要性を警備スタッフには意識させております。

最後にありますが、1月7日に開催された平成19年



編集後記

中原消防団広報誌「翔太」第3号をお届けします。発行にあたり、ご協力に深く感謝致します。



平成18年度より導入された「消防団協力事業所表示制度」表示マーク

度中原地区の消防出初式に参加させていただき、誠にありがとうございました。今後も防災活動を通じて地域社会に貢献したいと考えています。(担当 崎谷)

| | |
|-------|----------|
| 発行責任者 | 内藤 雅光 |
| 編集 | 中原消防団広報部 |
| 広報部長 | 川野 正久 |
| 中原分団 | 寫田 敏行 |
| 大戸分団 | 三堀 武 |
| 井上 | 武 |
| 鹿島 | 秀樹 |
| 横山 | 芳春 |
| 田口 | 眞弓 |
| 横山 | 哲夫 |
| 若島 | 恒行 |
| 高橋 | 昭仁 |
| 石井 | |
| 丸子分団 | |